

Social Workers

社大OB・OGがつむぐ福祉の絆

ソーシャルワーカーズ



2014
10月
Vol.12

八王子市地域包括支援センターもとはち南のみなさん

「住み慣れたまちで暮らしたい」 そんな思いを実現するために

全国の市区町村に設置されている地域包括支援センターでは、高齢者や支援を必要とする方が住み慣れた地域でその人らしく自立した生活が送れるよう見守り、相談に応じています。

interview

昭島市東部地域包括支援センター センター長
大山 弘一郎さん
おおやま こういちろうさん



きんじょう のぶえ
金城 伸江さん
八王子市地域包括支援センターもとはち南 相談員



支援を必要とする高齢者がよりよい生活ができるよう抱える課題を一つずつクリアにする

社会福祉学部 福祉援助学科
2010年3月卒業

きんじょう のぶ え

金城 伸江さん 社会福祉士

八王子地域包括支援センターもとはち南 相談員

PROFILE

1987年 東京都出身

2010年 社会福祉学部福祉援助学科卒業

八王子地域包括支援センター長房入職

2012年 八王子地域包括支援センターもとはち南開設につき異動 現在に至る



見守り通信

担当教室の司会



もとはち南のパンフレット



金城さんの ある日 (日によって業務内容は変わります)

- 09:00 仕事開始 電話対応やカンファレンスと呼ばれる申し送り、担当の事業内容などを確認
- 10:00 担当教室(「認知症サポーター養成講座」のフォローアップ講座)の打ち合わせ
- 11:00 地域担当の方を訪問 介護保険を利用している方を定期的に訪問し様子を確認
- 12:00 お昼休み
- 13:30 総合相談を受けている方を訪問 顔見知りになり信頼関係ができるよう何度か訪ねる
- 14:30 出張相談 遠方の方のために定期的に出張して相談を受け付ける
- 16:00 病院へ外出いて、もうすぐ退院する方の今後の話し合い(当事者と家族、医療ソーシャルワーカー、看護師、理学療法士、主治医などが出席)
- 17:15 センターへ戻り、1日の相談内容などをパソコンに記録
- 17:30 通常は勤務終了時刻だが、この日は、担当地区の新聞屋さんから「郵便受けに新聞がたまっている家がある」と連絡を受けて訪問するため残業
- 18:30 勤務終了



困っている人の相談を親身に聞き、信頼関係を築く

「ここ、地域包括支援センターは高齢者の方のようす相談所ともいうべきところです。困っている方の相談を親身に聞き、少しずつ信頼関係ができて、喜んでいただけるのがうれしいです」

金城伸江さんは八王子市地域包括支援センターもとはち南(愛称・八王子市高齢者あんしん相談センターもとはち南)で、ソーシャルワーカーとして高齢者の方の相談窓口を担当しています。高齢者の人権や財産を守るための成年後見制度を紹介したり、虐待の防止、高齢者を狙った悪徳商法の被害に遭わないようにアドバイスするなど、権利擁護の立場で支援を行うのが仕事です。

「このところ虐待に関する相談が多いように感じます。高齢者

の介護に疲れてつい手をあけてしまったと、介護者本人から連絡が入ることもありました」

この時は一時的に施設に入所して家族と分離し様子を見るようにと連絡を取り合いました。

ソーシャルワーカーの仕事を身近に見てこの道に進む決意

金城さんは中学生のころから特別養護老人ホーム(特養)でボランティアを経験し、将来は高齢者にかかわる仕事をしたいと思っていました。短大に進み介護福祉士資格を取得する一方、ボランティアをしていた特養でソーシャルワーカーの仕事に出合います。

「初めてソーシャルワーカーという仕事の存在を知り、福祉に対する考え方に魅力を感じて短大卒業と同時に日本社会事業

近年は相談を受けて自宅を訪問するケースが増えていきます。

「むずかしいのは、いくつもの課題を抱える方への対応です。高齢の一人暮らしで病気があり、家族が遠方に住んでいたりと、経済的にも問題があるなど、支援の糸口を見つけるのに迷うこともあります」

そんなときは保健師や主任介護支援専門員(主任ケアマネジャー)など専門職の職員と相談しながら一つずつ対応します。

「高齢者の方をさまざまな方向からサポートするソーシャルワーカーの仕事は幅広くやりがいがあり、この仕事に就いて本当によかったと思っています」と語る金城さんです。

いくつもの課題を抱える方に一つひとつ対応する

大学の3年に編入しました」

ゼミの授業では高齢者の在宅福祉分野の的をします。

「さらに4年では地域包括支援センターで実習し、地域に密着して高齢者に幅広い支援体制ができる、これが私のやりたかったことだと思いは決まりました」

卒業後は八王子地域包括支援センター長房に入職。最初は相談電話の受け方から学び、3年目に、もとはち南が開設され異動。今では「認知症サポーター養成講座」などを担当し、講座のレジュメづくりや司会進行、講師との打ち合わせも行います。

社会福祉学部 児童福祉学科
1993年3月卒業

福祉はむずかしいことではない 少しずつ手伝うことから素晴らしさがわかる

おお やま こう いち ろう

大山 弘一郎さん

社会福祉士

主任介護支援専門員

昭島市東部地域包括支援センター センター長

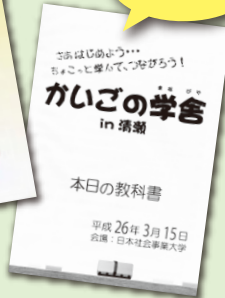
PROFILE

1969年 東京都出身
1993年 社会福祉学部児童福祉学科卒業
五日市町役場（あきる野市）職員、
会社設立を経て2010年より現職

パンフレット



講座のテキスト



自分が成長できたことへの 恩返しに福祉を目指す

大山弘一郎さんが福祉の仕事
を考え始めたのは、高校3年生
の10月頃でした。知人から「将
来、君がやるべきことは何か？」
と質問され、それまでの自分を
振り返ったそうです。

母子家庭に育った大山さんは、
母親の勤める特別養護老人ホー
ム（特養）によく遊びに行き、
民生委員や地域の方々との温かい
声かけや見守りの中で成長して
きたことを思い出しました。

「今度は自分が福祉の分野で
困っている方々の話を聞いて、問
題解決のためのお手伝いができ
ないかと考えました」

そこで、当時「福祉の東大」
と呼ばれていた日本社会事業大
学に、一浪のち入学しました。

○大山さんのあゆみ

1993年	五日市町役場 入職 福祉健康課 高齢者福祉係 配属
1995年	秋川市・五日市町合併により、あきる野市 役所 生活福祉課 保護係 配属
1999年	あきる野市職員を退職 有限会社 シルバーライフ設立
2000年	介護保険法における居宅介護支援・訪問 介護・訪問入浴（後に介護タクシー）
2008年	退職
2010年	昭島市より依頼を受け、昭島市東部地域包 括支援センター開設時にセンター長 現在に至る

社会活動

2013年～ 昭島市社会福祉協議会 福祉活動計画策定委員
同サロン推進協議会 委員
2014年 「かいごの学舎 in 清瀬」 実行委員長



福祉の勉強がしたいと入学し
たものの、知っている言葉はホー
ムヘルパーとかショートステイく
らい。それが、初めて受けた「社
会福祉原論」の授業が一気に福
祉への目を開かせてくれました。
「忘れもしない、のちに学長に
なられた先生の講義でした。福
祉の考え方や歴史的な成り立ち
などがわかりやすく、新鮮な驚
きとともに福祉の世界へと導いて
くれました。なぜ今このような
支援や制度が必要なのか、現在
とのつながりが理解できたので
す」

児童養護から路線変更、 地元の高齢者福祉担当へ

大山さんが入学したのは日本
社会事業大学が現在の所在地
（清瀬）に移転した年で、建物は

新しく学生数も増えて活気にあ
ふれていました。家族福祉コー
ス（当時）に進み、当初は母子
家庭の子どもたちへの支援活動
や子どもの更生に携わりたいと
児童養護施設への就職を考えて
いました。しかし福祉の仕事に
変わりはなく、お世話になった
地元の五日市町役場に入職し、
幅広い福祉課題に取り組むこと
になったのです。まず、高齢者
福祉係に配属になり、ホーム入
所やショートステイ手続きなど
老人福祉法の措置全般に係わり
ました。

「毎月60件ほどお弁当配食の
集金に1軒1軒回る仕事もあ
り、明治や大正生まれのお年寄
りから生活の困りごとや五日市
の昔話も聞くことができました」
1995年、秋川市と五日市
町の合併によりあきる野市役所
職員となり、生活保護のケー
スワーカーとして生活保護に携わ
りました。生活保護を受ける世
帯は、高齢者や障害のある方、
若くてもアルコール依存症など
さまざまな理由があり、ここ
でも担当する60件ほどの家庭を
訪問して相談や対応を担当した
ことが、のちの会社設立につな
がります。

「保健師が小型のプールを持
参して、寝たきりの方によるや
くひと月に1回ほど入浴介助が
できていました。そのような実
情を目の当たりにして、自分で
何かできないか、という思いが
湧いてきました」

会社を設立、地域を回り 在宅の介護支援事業をは じめる

2000年、介護保険法が施行された年に市の職員を退職し、有会社社シルバライフを設立。居宅介護支援事業・訪問介護・訪問入浴（後に介護タクシー）のサービスをはじめました。訪問入浴介助車で地域を回り、ヘルパーも増え職員65人くらいの規模へと大きくなっていました。

「7人のケアマネジャーの管理者として200件を超えるケアプランの作成支援、勉強会の開催、介護の業界新聞への記事連載、100人規模の花見大会の企画など、充実してはいましたが、次第に理想通りには進まない息苦しさを感じるようになってしまったんです」

そこで大山さんは福祉の世界と距離を置いて休息しようと大きな決断をします。会社を一緒に立ち上げた同僚に後を頼み、40歳を目前に退職、友人の会社でトラックの運転手というまったく違う職種に就きました。

福祉の世界から離れたものの市からの要請でセンター長に

そんな大山さんのもとへ、1年半後、昭島市役所から地域包括支援センターを新しく立ち上げる

るので協力してもらえないかという依頼が来ます。度重なる市からの要請に、

「ここ昭島市は、長年住む高齢者と新しい住民の新旧入り混じった地域です。行政とも手を組んで地域の力になれるなら、ついに熱意に折れてお引き受けすることになりました」

こうして昭島市東部地域包括支援センター開設とともに、センター長となり4年半になります。現在は管理業務や要支援1、2の方のケアプラン作成・総合相談を行うほか、主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）として地域の介護支援専門員の指導を行っています。働く人たちが疲れ切ってしまうようにメンタルヘルスにも気遣います。

福祉の従事者を対象に 勉強会や講座を開く

昭島市では4年前から介護福祉士の国家試験対策講座や訪問介護のサービス提供責任者を対象に自主的な勉強会、自主グループによる事例検討会等を開催しています。大山さんの東部地域包括支援センターでも、従事者を対象にさまざまな勉強会を開催しています。

「国で開かれている福祉施策に関わる審議会で、福祉に携わる従事者の質を問われる議論がされていると聞かされたに、現場で働くひとりとして残念に思っていたので、勉強会でステップアップ

して昭島市の福祉に貢献してもらいたいと期待しています」

このほかにも大山さんは、民生委員の方との勉強会で講師を務めるほか、今年の3月には福祉の現場で働く人たちなどを対象にした「かいごの学舎in清瀬」を開催しました。在学中から相談に乗ってもらっていた大学職員の方の協力を得て日本社会事業大学を会場に借り、205人もの参加があり次の開催も計画しているそうです。

大山さんは多くの人に福祉の世界を知ってほしいと言います。

「福祉は報道番組などで大変な仕事だととらえられがちですが、決してむずかしいことではありません。福祉の仕事を目指す人には学生時代に多くの方と知り合い、よく遊びよく学んでもらいたい。そしてまず、お手伝いすることから実践してみると福祉の魅力と素晴らしさがかかると思います」



▲「かいごの学舎 in 清瀬」の講義の様子

地域包括支援センターとは？

高齢者やその家族などからの相談に応じて支援します

今回お話を伺った大山さんや金城さんが働いている地域包括支援センターの設置目的や役割などを紹介します。

Q1 ▶ 「地域包括支援センター」とは何をしますか？

A1 ▶ 高齢者などが住み慣れた地域で、安心して尊厳あるその人らしい生活を継続できるように、介護・保健・福祉の専門職がチームとなって、高齢者やその家族などからの相談に対応するところです。2005年の介護保険法改正で制定されました。

Q2 ▶ 全国にどのくらいあるのですか？

A2 ▶ 全国の各市区町村に約4,300カ所、ランチ（支所）を含めると7,000カ所以上が設置されています（厚生労働省平成24年4月末現在）。

Q3 ▶ どのようなことが相談できるのですか？

A3 ▶ 「地域包括支援センター」には次のような4つの役割があります。

- 総合相談
健康や福祉、医療など、どこに相談していいのかわからない悩みなどに対応します。
- 介護予防マネジメント
要介護認定の申請を頼みたい、要支援1・2の認定を受けたので介護予防のプランを立ててほしい、といった相談を受け、住み慣れた地域で自立して生活ができるよう支援します。

●権利擁護

お金の管理や契約などに不安がある、悪質な訪問販売にあっている、介護に疲れて虐待をしてしまう、などの相談を受けて、その人の権利を守るための支援をします。

●包括的・継続的マネジメント

地域の方々と医療関係などさまざまな機関と連携します。また、地域の皆さんを支える介護支援専門員（ケアマネジャー）が円滑に仕事ができるよう指導や支援をします。

Q4 ▶ どのような人が働いているのですか？

A4 ▶ 保健師（または看護師）、主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）、社会福祉士（ソーシャルワーカー）が置かれ、専門性を生かしてお互いに連携しながら働いています。

Q5 ▶ ソーシャルワーカーはどのような仕事をするのですか？

A5 ▶ おもにQ3にある「権利擁護」を担当して、相談者やその家族の権利を守ります。

ソーシャルワーカーは、専門知識を生かして、誰もがその人らしく暮らせるよう支援しています。活躍の場はますます広がっています。